

|   |   |
|---|---|
|  | <p>2023年 10月1日 第158号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会事務局</p> <p>年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会<br/><a href="http://mizumidori2.eco.coocan.jp">http://mizumidori2.eco.coocan.jp</a><br/>E-mail : <a href="mailto:mizumidori@nifty.com">mizumidori@nifty.com</a><br/>〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 090-1423-9894</p> |
|---|---|

## 食べられるドングリ

# シイノキとマテバシイ

多くのドングリには渋みがあって食べられないし、ドングリを食べようとは思いませんよね。これは、食べられるドングリの話です。おもしろそうでしょうか？

私はシイノキの実を拾ってきて何度か食べました。フライパンで乾煎りすると、パチッと殻にヒビが入ります。もう少し煎り続けて、ヒビが入ったところから殻をむいて、中の実を数粒ずつ家族で食べました。生でも食べられますが、炒った方が絶対おいしい。栗のような味です。ドングリと種類は違いますが、カヤの実も同じように食べられます。北原白秋の童謡「カヤの木山」で歌われている、囲炉裏で炒っているカヤの実がおいしそうで、一度味わってみたかった。カヤの実は針葉樹なので、森林のにおいがします。数粒でも自然の恵み、木の実を頂くのは楽しいです。ドングリの中でマテバシイはアクが少なく食べられると書いてあります。マテバシイは公園でもよく見かけますが、あまりおいしくないそうなので、私は食べたことがありません。

**シイノキの話** ドングリは、一部または全体を殻斗（かくと）で覆われる堅果を言います。殻斗を私たちは帽子と呼んでいます。ドングリの実の形と帽子の形で、ドングリを見分けます。

シイノキ（シイノミ）のドングリは先が細くとがっていること、帽子が全体を覆っているのが特徴です。



シイノキは、常緑のこんもりとした形の地味な木です。人間の干渉を受けない場所、神社やお寺、古い屋敷などに残っています。また赤塚公園の自然の森に残っています。

## マテバシイ

マテバシイは、あちこちの公園に植えられていて、ドングリも大きく、たくさん落ちています。なので、シイノミほど美味しくないけど、アクもないのでみんなで食べてみると楽しいかもしれませぬ。ただし、空炒りできる鍋やフライパンで。

マテバシイは大きな葉の常緑樹です。写真右のドングリで、お尻が凹んでいるのが特徴です。

マテバシイは、九州以西に自生する木で、関東の里山にはなかった木です。



## どんなドングリでもあくを抜けば食べられる！

昔、と言っても縄文時代？にはドングリを粉にして、水にさらして、うわ水を捨て、また水にさらして、を繰り返して、底に沈んだ白いでんぷんを食べました。

お土産屋さんで売られているトチ餅やトチノミせんべいは、山のトチの実を集め、手間暇かけて、何度も水にさらしてあくを抜いて得られたでんぷんの加工品です。

韓国の食材店でドングリを原料とする豆腐のようなものが売られていて食べたことがありました。また食べたいか？というと、私はキムチの方が好きですが、韓国の人の方のふるさとの味なのでしょう。

ドングリとは、ブナ科の果実の俗称です。日本に自生するドングリの木は、23種1亜種4変種とされ、コナラ・クリ・マテバシイ・シイ・ブナの5グループ（属）に分けられます。栗もドングリの仲間なのですね（坂本 郁子）。

# みんなで赤塚城址の虫調査

いたばし夏ボラ2023「赤塚城址バッタ広場の生き物調べ」に初めて参加しました。

第1回 7月29日(土) 参加者親子 12名

第2回 8月26日(土) 参加者親子等 10名

スタッフ6名、赤塚公園サービスセンター職員が加わり、両日とも参加者たちが賑やかにバッタ広場の生き物を採るために昆虫網や虫を入れる容器を手にして草原の中に入っていきます。



私が膝の高さ程の草むらに入ると、ピョンピョンと小さなバッタが跳ねた。慌てて容器の中に入れようとしたがとれない。奮闘の結果やっと1匹ゲットできました。

まわりを見ると、小学生たち、親御さんたちもバッタ・蝶・トンボその他いろいろ採集。そして虫が入った容器が木陰のベンチに集められてくる。

今年の猛暑日が続く中、みんな昆虫採集に夢中です。

「熱中症予防に水分補給してください」とスタッフが声をかける。

蚊に刺された他人のお子さんに虫よけスプレーを貸してあげたり、携帯用蚊取り線香を点けてベンチ近くに置いてくれる方などがいて、初対面同士でも和やかな雰囲気です。

それぞれが採集した虫の容器が揃い、皆で見て名前を調べて発表！  
同じ種類の虫でも「こっちの方が大きい」「こんな虫初めて見た」など話が弾む。

「これなーに？」の質問に子供達は虫の名前や生態を知っていて感心しました。採集した生き物の名前を記録した後、採った虫を子供たちの手で広場の草むらに放ちました。



バッタ広場の緑の草原を眺めながら子供達が大人になってもこの風景があるといいなと思いました。

小林悦子



7月29日



8月26日

## 採集・確認した昆虫

7月29日

ショウリョウバッタ8、オンブバッタ1、クビキリギス3、キリギリス幼2、ナミアゲハ2、ヤマトシジミ1、ベニシジミ1、ツマグロヒョウモン、コムスジ、シオカラトンボ、アオオサムシ羽、コフキコガネ、ホシハラビロカメムシ、ウズラカメムシ、カマキリ脱皮殻2、クモ

8月26日

ムネアカハラビロカマキリ?、ショウリョウバッタ、クビキリギス幼6、ツチイナゴ幼1、セスジツユムシ幼1、キリギリス幼2、タマムシ羽、クサギカメムシ1、アカマダラメイガ1、ツマ

グロオオヨコバイ2、ジョロウグモ、



今年は、期待したカマキリが採集できませんでした。瀬田さんは減ってきているのではと心配しています。カマキリの抜け殻は2個あったので、いるはずです。

写真左はハラビロカマキリですが、胸が赤いので、外来種ではないかと思いました。おなが大きいですが、まだ産卵の時期ではなく、ハリガネムシに寄生されているのかもしれない。

参加した小学生には虫博士もいて、知識もすごい。頼もしい限り。



写真左は体長1cm位の小さなキリギリスの幼虫。写真ではヒゲが途中で切れていますが実物はずっともっと長いのです。

この秋はキリギリスの仲間が多くなるような気がします。

# エコポリ(エコスクール)で セミの勉強会

私たちは子供のころセミ取りをしました。今は、大人も子供もセミに興味がないようです。

8月9日に、エコポリで小学3年生以上を対象に「セミ博士になろう」というテーマでセミの勉強会をしました。私たちも初めての取り組みですが、「セミなんて知ってる」と高を括っていたところがありました。

いろいろなことがわかると、虫の生き方が見えてきます。その面白さを知って、夏休みの自由研究にならないか、というのが勉強会の動機です。当日、セミの抜け殻を持って集まった子供達で

すが、セミが好きな子供はいなかったし、嫌いだという子供もいました。人気があるのはカブトムシらしい。

まずはセミの死骸を手にとって、解説表を参考に虫眼鏡で観察。

固い木の幹に差し込んで汁を吸う注射針のような口。それからお尻に産卵管があるのがメス。アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシなども触って観察。さわれない子供はイヤァッと叫んで拒否、でも虫の知識は豊富！。

木にとまって鳴いているセミが木に卵を



産んで、幼虫が地面から出てくる不思議も学びました。

次に抜け殻で、オス、メスの見分け方、アブラゼミとミンミンゼミの見わけ方を実習。

(写真右)。





これがかなりむずかしい。触覚の形状で見分けるのですが、目のいい子供たちはわかったらしい。

次に、外に出て前野公園でセミを探しました。ダスト舗装された固い地面、小さなセミの幼虫が穴を掘って地面に潜り込むには固すぎて無理。それでも木の枝にセミが1匹いるのを子供が発見。傍の植え込みにセミの抜け殻が1個ありました。

子供たちの感想は、「おもしろかった」そうです。もっと調べてみたい、とうれしくなるような感想もありました。

どんなところにセミがいるか、から自然環境の違いを学べますね。



## 観察記録 (2023年7月～9月23日)

**トンボ池** 相変わらずザリガニ多、ハグロトンボ (写真右)、オオシオカラトンボ、オオカマキリ、ハラビロカマキリ、コカマキリ、トビイロスズメ、アカボシゴマダラ幼、スズメバチ、アブ産卵、アミガサハゴロモ、クサギカメムシ、ベッコウハゴロモ、エサキモンキツノカメムシ、タコノアシ花 (20株位)

**バッタ広場** ツチイナゴ、オオカマキリ、クダマキモドキ、コアオハナムグリ、ナツアカネ、ナカグロアツバ、オオウンモンクチバ、ツマグロヒョウモン、マメコガネ、クサギカメムシ、センチコガネ、キリギリス幼、ツマグロオオヨコバイ多、ヤブツルアズキ抜き取り、アレチヌスビトハギ花 (駆除)、ノコギリカミキリ (城址)、クロスズメバチ (城址)

## 赤塚公園どんぐりまつり 実施します

10月7日 (土) 10時～15時 (雨天の場合は8日 (日)) 準備のため9時半集合  
赤塚公園中央地区 (噴水のある場所) サービスセンター前  
いたばし水と緑の会は、

ミニ観察会「どんぐりの森で自然のたからものを探そう」

10時15分、13時30分スタート

ミニ展示とクイズ 木の実の展示。クイズは「食べられる木の実はどれですか」

みのりの秋です。参加者と一緒に種や実を探しませんか。

# 活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は 坂本まで 090-4618-1295

## 1 赤塚城址ビオトープちょっと観察と手入れ（第2日曜日）（どなたでも）

赤塚城址周辺は自然が豊かなところです。生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら元いたところに返します。ササ刈り等の作業もやります（カマは用意します）。

10月8日（日）10:00～11:30

11月12日（日）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装・作業手袋（軍手）、あれば図鑑、虫眼鏡など、

## 2 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ（第4土曜日）

10月28日（土）10:00～11:30

11月25日（土）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

雨天の場合は中止（または翌日） 問い合わせは：坂本まで

汚れてもよい靴と服装で。作業手袋、

## 3 日暮台公園と樹林地の観察（第1土曜日） 日暮台公園前集合

10月1日（日）10:00～11:30

11月5日（日）10:00～11:30

12月3日（日）10:00～11:30

## 4 赤塚公園どんぐりまつり（前ページをごらんください）

●ビオトープボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。

●定例の活動の他に、会報に掲載しませんが、区外の自然や保護活動の見学も実施しています。